

平成29年度 川内北中校区 まちづくり懇話会 答弁要旨

と き 平成30年3月27日（火）14:00～16:00
ところ 中央公民館（ホール）
出席者 市：市長、永田副市長、知識副市長、
企画政策部長、市民福祉部長、商工観光部長、農林水産部長、建設
部長、教育部長、危機管理監、建設維持課長、地域政策課長、広報
室長、外
地域：各地区コミュニティ協議会長をはじめとする
地区住民 96名
(合計113名の参加)

議 題

議題1 亀山地区)

銀杏木川の寄洲除去・耕作放棄地の解消・高城川堤防の草払いについて

高齢化が進み、田んぼ等の耕作者も減少したことから、荒地が増え、雑草も繁茂している。このため、さまざまな被害が生じ、地区民が安心・安全に暮らしにくい環境になっている。

例えば、

- ・見通しが悪く、事件・事故の発生原因となっている。(通学路等における交通事故の発生、不審者事案等)
- ・不法放棄の場となっている。(どこでも簡単にポイ捨て)
- ・鳥獣虫被害の場となっている。(イノシシ・シカ・ジャンボタニシ等)

といった現状がある。

については、これらの解消に向け、次の3項目についてお願いしたい。

- 1 銀杏木川の寄洲除去
- 2 耕作放棄地の解消
- 3 高城川堤防の草払い

【建設部長】

1と3について、建設部が回答する。

まず高城川について。位置は川内川との合流点、須崎橋から川江橋を通り五代酒造の少し上辺りまで。これまでも地元住民の河川愛護、あるいは建設業者のボランティア作業で一部伐採等を行っていただいているが、高城川に限らず、市内各地区で高齢化が進み、作業範囲が減少してきている。

さて、高城川は県河川になっているため、市では県に毎年何回も草払いをしてほしいということを要望している。

同じく、銀杏木川についても、銀杏木川ポンプ場から新田神社を通り、比較的街中を通っている河川で夏場は水草などが繁茂して景観も悪い。このような景観が、特に新田神社や可愛山陵があり由緒ある地区内でも見受けられる状況であったので、県に現地を赴いていただいて状況を確認していただいたが、県の予算も厳しく、一気に実施できるということはできない状況である。しかし、このように要望を重ねていくことで、県が実施している範囲が広がってきている。

また、県内の全市長が集う市長会で、本市からの提案として河川の伐採や寄洲除去の県全体の予算確保をしてほしいという要望を決議いただき、県知事に要望書を提出している。今後も機会あるごとに県に要望をしていきたいと考える。

ただ、費用対効果を考えると、県も予算が取りづらくなっているのではないかと分析している。しかしながら、今後も河川の景観整備と河道の確保を県に逐一要望していくので御理解いただきたい。

【農林水産部長】

2について、農林水産部が回答する。

耕作放棄地については、これまでもその解消に向けた要望も非常に多い。市でも大きな課題と考えている。

これまでの対応策は、国県の補助事業である中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金の活用を推進しながら集落単位の耕作放棄地発生防止や解消策についての検討を進めてきたところである。

しかし、市外部周辺については対応しきれていない。そのため課題である耕作放棄地の解消や水路、農道の維持補修といった具体的な取組を支援するために、平成30年度から地域農業活性化支援事業を新たに予算化した。

この事業は、中山間地域等直接支払交付金等を活用されていない地域を対象としている。集落ぐるみや例えば3人での任意団体で取り組もうと計画されている方々に対してモデル的に支援して参りたい。予算は上限30万円で、4分の3補助となっている。住宅地と農業地が混在している地区で活用できると考えるので、御相談いただきたい。

鳥獣被害対策については、電柵設置等の補助金がある。面積が1,000㎡以上等の条件がある。市農政課に御相談いただきたい。

議題2 (可愛地区)

安心・安全なまちづくりについて

可愛地区コミュニティ協議会は、運営方針を「健康で、明るく、活力に満ちた安心・安全な住みよいまちづくりをめざす」と定め、本年度の努力目標の中に、安全対策への自助・互助活動としての各種の取り組みとともに、「通学路の安全対策への活動」「一般国道3号御陵下地区・上川内地区無電柱化事業の促進」等を掲げたところである。

地区内に大型店舗等が出店し、交通量が増加していると思料される現状において、今回は、安心・安全な住みよいまちづくりの実現に向けて本地区が必要と考える、道路整備を主旨とした次の4点について、市の見解を伺いたい。

- 1 可愛小学校周辺道路の安全対策（特に運行車両の減速への取り組み）
- 2 地区コミュニティセンターへの国道3号からの進入道路の安全対策
- 3 一般国道3号御陵下地区・上川内地区無電柱化事業の促進
- 4 都市計画道路「隈之城高城線」の整備の促進

【建設部長】

1について。

国道3号から川内高校の裏の踏切までは、昨年舗装を実施した。

また、国道3号から可愛小学校体育館への約200mはカラー舗装を実施し、児童の安全確保を図る対策を講じた。

さらに、川内高校の北側は国道事務所の許可が下りたので、現在拡張工事中である。平成30年度以降、川内高校裏踏切から川一商店があった箇所までの舗装打ち替えを計画している。併せて用地が確保できれば、現状が狭いので、待避所の設置も考えているが、地権者の御協力が必要である。

可愛小学校から川内高校裏側の交差点付近には「学童注意」「スピード落とせ」等の注意喚起の表示を設置したいと考えている。

2について。

諏訪保育園付近の降り口がカーブで離合が難しいということで、下り一旦停止線はかなり上に設置しているが、抜本的な改修はまだである。

先日、地区コミュニティ協議会と現地調査を行った。付近に空き家があり拡幅等に御協力いただける可能性があるとのことで、今後、地権者と用地の確保に向けて協議を重ねて参りたい。

3について。

国道267号入口から風口交差点までは完了した。しかし、舗装は一部完了していない。鹿児島国道事務所に確認したところ、今夏までには完了する予定とのことである。

る。

風口交差点からの約 900mについては、一般国道上川内地区無電柱化促進協議会が国道事務所に要望されている。この工事は九州電力の電線、N T Tの電話線を支柱に入れるものである。それぞれの事業者負担があり、ボックス自体は国道事務所が設置するが、電柱を抜く、ケーブルを中に入れるというような作業はそれぞれの事業者が負担をしなければならない。現在、九州電力の同意は取れているが、費用対効果等についてN T Tがまだ検討中で、同意に至っていない。

鹿児島国道事務所が実施する区間として位置付けはされている。今後も国県とともに事業者へ要望して参りたい。

4について。

隈之城高城線は都市計画決定はなされているが、現在、川内川の引堤事業に併せた中郷五代線の街路事業が2年ほど残り、また、駅前白和線が平成30年度まで工事が残っている。この2路線を都市計画道路として整備中である。また、天辰第二地区の引堤工事や県道整備も都市計画事業として始まったばかりである。

隈之城高城線が改良されると効果が高いと考えるが、上記のような事業が動いており、その進捗状況を見ながら進めて参りたい。もうしばらく時間が掛かるものと思われる。御理解いただきたい。

議題3（育英地区）

内水排除対策の早急な検討・実施について

当地区は、区画整理に伴い宅地造成化が急激に進み、洪水時の遊水地であった広大な水田地帯が消滅した。

道路も殆どが舗装され、地区内の河川は流域の短さ、狭小、底の浅さで増水時には国道267号に集中し、「まごころ文学館」の十字路で深みを作り住民の避難通路を遮断し、その勢いはおれんじ鉄道のアンダーパスを水没させ、交通途絶を惹起する。

梅雨や台風時、また異常気象によるゲリラ豪雨等の増水・洪水に対し、地区内の住民の生命、財産を守り、安心して住むことの出来る地域づくりには、内水の処理対策が喫緊の課題であると考えます。

ついては、この対策について、早急な検討・実施をお願いしたい。

【建設部長】

平成18年のナナフミ水害で中郷川も溢れて国道267号まで冠水した。それを受けて、薩摩川内市内水対策中長期ビジョンが策定された。既に、中郷上池の水位を調節する施設の斜樋設置、育英小学校付近が冠水したことを受けて、その付近を分岐点として

中郷川の水を中郷ポンプ場に誘導するような水路の整備が完了している。現在は、下内田樋管の引堤工事に併せて導水路の整備を進めながら川内川河川事務所付近の水を早く引き込むような管路の整備を進めている所である。

問題のある銀杏木川の肥薩おれんじ鉄道の交差部分から市水道局の前を通り博善社の辺りまでの区間については、昨年もゲリラ豪雨と言われる短時間に 100mm 級の雨が降った際に浸水した現状がある。その都度、現地に出向き調査している。

年次計画については、平成 30 年 4 月に銀杏木川にどういった流入があるのかなどの内水解析をし、どれくらいの断面があれば浸水がなくなるのかといった調査費を計上している。1 年かけて調査し、方法や施工方法を検討する。その結果をもって、工事計画を立てていくことになる。御理解いただきたい。

質問・要望

国道 267 号の肥薩おれんじ鉄道のアンダーパスにあるポンプは鹿児島県のものであると伺っている。県とどのように折衝しているのか。冠水することは知られている。地区民が恐れているのはサンアリーナ付近にゲリラ豪雨が降り、国道 267 号が止まってしまうこと。冠水対策について県と強力な交渉を行ってほしい。見通しはいかがか。

【建設部長】

国道 267 号のアンダーパスは県が管理している。ポンプは 1 台設置であると思われる。県には伝える。

質問

育英地区の工事は第 1 期工事が完了し、市から第 2 期・第 3 期工事の案を見せていただいた。しかし、次の工事に入っていない。

バイパス工事 1 本が完成したが、今後の展望を踏まえて、今後のバイパス計画をお伺いしたい。

【建設部長】

内水対策中長期ビジョンの中で色々な管路を設けている。これまでの予算で実施されたものが育英小学校付近の水を中郷ポンプ場で汲み上げるようにするという。併せて、下内田でも工事に入っている。

幸い、平成 18 年度と同等の雨がまだ降っていないため、どの程度の効果があるのかも不明である。これまで整備した工事で平成 18 年と同程度の雨が降った場合でも耐え得るかもしれないということもあるので、次のメニューとしては銀杏木川に入っていないかなければならないと考える。

また、第 2 期・第 3 期の計画は継続中である。

その他意見・要望

質問

三地区にも言えるが、自治会の加入率が低い。強制的加入はしておらず、本人の希望も尊重しなければならないが、加入率を上げて地域の一体感を作り上げていくことも大事である。加入率向上のための市の対策を伺う。

【企画政策部長】

最新の自治会加入率は市全体で約80%である。合併後、加入率は低下している。

日頃より自治会長の皆様には地域内の未加入者宅訪問やチラシ等で加入活動を行っていただき感謝申し上げます。

市は自治会加入率85%を目指して、市民課窓口での転入者への加入説明や単身世帯が多い市街部でのアパートやマンションの管理者や宅建業協会の方々に協力をいただき、また、企業や大学にも出向き自治会加入に向けて働き掛けをしている。

また、広報紙や市ホームページなど、様々な媒体を使った取組もしている。

その他、毎月8月を自治会加入促進月間と位置付け、未加入者が加入に繋がるようハガキを送付している。

今後、未加入者宅への訪問も含め、地区・自治会・市が連携して参りたい。

要望

- ・自治会長に来年度に向けて提出する各種申請書が届いている。色々な様式を市ホームページからダウンロードできないか。
- ・窓口でスタンプ印を使用できないか。

【地域政策課長】

1点目は持ち帰り検討して参りたい。本年度準備できたら御連絡したい。

【市民福祉部長】

2点目については、一般的に窓口等で本人確認をする上では使用を控えていただいている。特に同じ姓であるとどれも同じ型でできているので個人を特定することができない、またスタンプ印は工業用のインクを使用しているのもので長期の保存に耐えないということもある。市あるいは公共的団体については朱肉を使用するもので、認印以上のものに対応させていただいている。御理解いただきたい。

質問

行方不明者の捜索費用について、どの程度の費用が必要なのか。
また、捜索開始から3日目までは行政が、4日目以降は自治会や地区コミュニティが出すということになっているのか。

【危機管理監】

捜索は警察の管轄。市は警察からの協力依頼を受け、市消防局・消防団の協力をいただきながら捜索活動を実施している。活動は捜索依頼を受けてから最初の3日間。その間の費用は、依頼者の費用負担はない。

その後の捜索活動については、依頼者の意向を踏まえた警察の捜索活動になる。状況により費用が発生する場合もあると考える。昨年は、依頼者が地域の方をお願いをされて地域の方々がボランティアで活動された事例があった。

一方、山岳遭難では費用負担が発生する場合がある。実質かかった費用が対象。一概にはその額は言えない。

質問

市職員は自治会活動に積極的に参加しているか。

【永田副市長】

自治会・消防団活動を含め、一人の住民ではあるが、公僕として積極的に参加するよう、市長を含め職員に要請している。

市職員が消防団員として約130名が入団している。地域によっては自治会の役員あるいは地区コミュニティ協議会の役員として活躍している事例もある。

強制ではないが、引き続き、できる限り積極的に市職員としてこのような活動に参画するように呼び掛けていく。御理解いただきたい。

要望・提案

- ・平成26年に家族介護者の会を立ち上げた。メンバーは養老介護者が多い。利便性の高いコンベンションホールができるということで活動拠点の場にしたい。
- ・家族介護者の会において、出前講座を実施する。サロン等の会合等に認知症に関する説明会や話を聞いてみたいという方がいれば御連絡いただきたい。市と連携して希望に合わせて活動していきたい。

【企画政策部長】

コンベンションセンターの1階に公共施設を配置する予定で、その中にボランティアセンターを設置する予定である。詳細な利用や申込方法、使用許可等は今後検討し

ていく。分かり次第、御連絡したい。

【市民福祉部長】

家族介護者の会の皆様には認知症介護の関係等御協力いただき感謝申し上げます。

会の運営についても、市も連携しながら一緒に取り組んでいる。この懇話会の参加者の皆様、また、サロンやカフェへの出前講座についてありましたら、市へも御連絡いただければ、家族介護者の会と連携して活動して参りたい。

質問

自主防災訓練時に独立電源型LED灯（スマコミライト）から電源を取ろうとしたが、電気コードがなかった。施設は災害詰所にもなっている。常時設置されていないのはなぜか。

100V のコンセントが2個、5V の電源が2個設置してある。小さな発電所のようなものではないのか。

【商工観光部長】

LED灯は停電時の使い勝手がいいように設置してあるので、再度確認をする。

また、その他の地区コミュニティ協議会にも再度確認をする。

【危機管理監】

防災の観点からも確認し、対応について検討する。さらに、どのような使用方法が可能であるのか、防災の観点から再度調査し、周知して参りたい。

また、スマコミライトの蓄電池の容量等も併せて確認し、今後の使用についてもお示ししたい。持ち帰って確認する。

要望

育英地区の区画整理が完了した箇所道路が老朽化している。地割れや暗渠の空洞化など自治会長に報告が上がってきている。その都度、現場を確認し市に報告しているが、市でも老朽化している所はないか、安全パトロールを実施するなど、確認ができないか。

【建設部長】

中郷地区の区画整理は、中郷地区区画整理事業と第2中郷地区区画整理事業の2期に分けて実施した。御意見のあった箇所は早期に事業を実施した箇所と思われる。現在もパトロールを実施しているが、引き続き実施して参りたい。

意見・要望

韓国・中国の姉妹都市だけではなく、広く欧米先進国へ市職員を視察に出向かせ、広い知見・見識を醸成させて本市のまちづくりに携わっていく必要があると感じている。人材育成に重点を置いた施策をお願いしたい。

この懇話会もグローバルな視点で語れる場にしていただきたい。

【永田副市長】

近年、人工知能、AI、IoT、情報の高度化に加えて国際化の進展、ボーダレス社会など世界的な流れがある。そうした中で、市は市民への福祉サービスの向上、道路、環境等などが主たる業務である。他方、木材の中国への輸出等の外国貿易あるいは外国人観光客の受け入れなどその他、世界に目を向けた施策展開も大変重要であると認識している。

このようなことから、本市は韓国・中国と友好都市盟約を結んでおり、特に韓国へは相互に3カ年に渡り職員を派遣している。また滋賀県の国際文化アカデミーにも意欲ある職員を現在も派遣している。長期に渡る海外派遣ではないが、可能な限りの国際感覚を確保するための研修には努めていると考える。

欧米先進国への派遣は、今後の検討課題とさせていただきたい。御理解いただきたい。

意見・要望

昭和46年の高城川の決壊には床上浸水など水害には苦い思い出がある。

これを教訓として企業も御協力いただき避難所の設置や避難訓練も実施している。

毎年、市職員から地区役員等に対して詰所の開設や水害などの防災に関する説明会が実施される。その中で、自治会ごとに避難マップを作成してほしい。

また、詰所長の配置の仕方も検討すべきと考える。

【知識副市長】

現在、大きな浸水は発生していない。ただ、平成18年には内水被害は発生している。昭和46年などの過去に水害があった痕跡が残っているが、風化していると感じている。

しかし、川内川の堤防は住宅地より高い位置にあり、浸水はあり得るものと認識していただきたい。なぜならば、他県で浸水被害のあった地域住民が、まさかこの堤防が決壊するとは思わなかったという反応だったことを聞いている。それを考えたとき、浸水の記憶がある皆様は避難訓練をしようとする積極的に思われると考える。しかし、浸水を体験したことがない方々は避難訓練に参加されないのではないか。しつこく声を掛けていただき、浸水被害の記憶が薄れないように繋いでいくことが大切である。

このための取組として、水防災意識の再構築というようなことで、今後は浸水が起り得るものだ、絶対ということはないという意識を持ち続けることが大切である。

大雨時は避難する、その一つに垂直避難という方法もある。水害が発生すれば2～3日すれば水は引いていくと思われるので、その間は避難を心掛けてほしい。

詰所要員の配置については、真摯に受け止めて対応して参りたい。